

委員会活動 報告書

日本技術士会中国本部防災委員会

事業名称	令和4年度第2回 WEB 防災講演会・ライブ配信 公益社団法人 日本技術士会 中国本部防災委員会：(一社)建設コンサルタンツ協会 中国支部：共催、広島県災害復興支援士業連絡会：協賛		
実施時期	2023年2月3日(金) 13:00~17:00		
実施場所	広島弁護士会館(集合, Teamsを使ったWeb配信) 鳥取、倉吉、山口、島根の各拠点会場での集合形式と自宅等での個人視聴		
参加人数	430名(会場計90名, オンライン340名)	CPD	3時間30分
事業内容 と感想	<p><u>テーマ：「気候変動と流域治水への取り組み」</u></p> <p>13:00 開会挨拶 (一社)建設コンサルタンツ協会中国支部支部長 小田 秀樹 氏</p> <p>13:05 講演①「地球温暖化の進行と西日本における降雨の極端化」 広島工業大学教授 田中健路 先生</p> <p>14:05 講演②「流域治水とまちづくり～災害常襲地域における流域治水を 考える～」 東京大学大学院教授 羽藤英二 先生</p> <p>15:05 休憩 (10分)</p> <p>15:15 講演③「二級河川本川水系における特定都市河川の取組状況」 広島県土木建築部河川課課長 三上公彦 氏</p> <p>16:15 講演④「流域治水において農業ため池や水田の果たす役割」 広島県農林水産局総括官(農林基盤整備)高田善雄 氏</p> <p>16:45 講演⑤「治水とまちづくり連携計画と防災集団移転」 江津市事業推進課主査 松田 徹 氏</p> <p>16:55 閉会挨拶 (公社)日本技術士会中国本部防災委員長 山下 祐一 氏</p> <p>近年、集中豪雨により洪水の被害が全国的に発生しており、その原因、分析・対策が求められている。今回、5名の講師による西日本の気候変動、流域治水とまちづくりの取り組みについて事例を通じて講演をしていただきました。</p> <p>講演①広島工業大学の田中健路先生から、日本周辺の気候場として降雨増加傾向にあること、西日本で発生した極端豪雨の事例分析、地球温暖化として2℃、4℃上昇の気象予測によると短期降雨上昇が予測されることなどを講演いただきました。</p> <p>講演②の東京大学大学院の羽藤英二先生から、洪水の常襲地域として愛媛県の肱川流域について野村町と大洲市の災害史と都市形成変遷を分析され、危険地帯への進出とその要因等今後のまちづくりについての提言をされました。また、流域治水とまちづくりの東日本大震災、西日本豪雨災害後の復興まちづくりについての事例を交えて講演され、今後のまちづくりの考え方について示唆をいただきました。</p> <p>講演③広島県河川課長の三上課長からは、2018年7月西日本豪雨後の特定都市河川の指定や流域水害対策計画及び課題について講演いただきました。</p> <p>講演④広島県農林水産局の高田総括官からは、流域治水における農業ため池や水田の果たす役割について講演され、ため池による効果や水田ダムとしての機能などを</p>		

講演していただきました。

講演⑤江津市事業推進課の松田主査からは、江の川流域治水対策として松川町長良地区の防災集団移転についての準備、計画、経過など地元住民とのワークショップにより実施の計画がまとまり、国への要望書のとりまとめまで詳細に講演いただきました。中国地方で初めての流域治水の防災集団移転事業は今後の参考になると思われれます。

今回の防災講演会は、日本周辺の気象変動とともに、洪水による被害の拡大を受けて、特定都市河川事業や防災集団移転など新しい事業もスタートするなど早期の流域治水対策が推進されることが望まれます。

講演資料は日本技術士会中国本部のHPに公開されます。



広島工大 田中健路先生

東京大学 羽藤英二先生

広島県 三上公彦氏



広島県 高田善雄氏

江津市 松田 徹氏

会場（広島弁護士会館）